

サイ・テク こらむ 知と技の発信

[320]

埼玉大学・理工学研究の現場

■科学の真理を決めるのは、すなわち「パラダイムシフト」科学哲学者トマス・クーンは、が生じると指摘した。確かに、その著『科学革命の構造』で、相対性理論や量子力学などは科学の歴史が常に累積的なもの、型例であるが、従来の法則ではなく、断続的に革命的变化、に合わない実験的事実が次々と



ねもと・なおと 1958年生。96年3月埼玉大学大学院修了。博士(学術)。三菱化学生命科学研究所特別研究員、産業技術総合研究所、埼玉バイオプロジェクト関連で起業したバイオベンチャー企業を経て、08年4月より現職。専門は進化分子工学、分子生物物理学。進化的なタンパク質の機能改変や生命の起源を研究。

パラダイムシフト 根本 直人 教授

突き付けられることにより、科学的見方や法則の変更を余儀なくされ、新しい理論や法則が発見されるのが科学のたどってきた道だ。

実験事実という自然に対する問い掛けに対する客観的事実に謙虚に向き合うことこそが科学的態度であり、そこに進歩が生まれる。科学の真理を決めるのは、王様や地位の高い人ではなく、実験結果という客観的な事実のみである。

元国立教育研究所物理室長の板倉聖宣氏は、なぜ生徒全員が理科を学ぶ必要があるかという問いに対し、「科学は民主主義を守り育てる」と答えられた。

事実の前にすべての人は平等であり、それを教員も学生も平等な立場で議論することが、科学の発展に大切だ。板倉氏はこれを授業として具現化するために「仮説実験授業」というすばらしい授業法も開発され全国に広がっている。

■メディアの務めとは さて最近、事実を大切とするはずのメディアがこれがないがしろにする事例を目の当たりにして衝撃を受けた。

加計学園問題である。既に1カ月前になるが、「記憶の方も多いと思う。7月10日に衆参両院で、加計学園問題に関して閉会中審査が開かれた。事実を知

るために中継録画を見たが、参事考人の加戸前愛媛県知事の説明で、本件の全貌が白日の下に明確に示された。不明瞭な点など一つもない。正常な判断力を持つ大人が見れば10年前から愛媛県が必死の思いで進めてきたプロジェクトであり、この2、3年で決まったことではないことが明らかである。

しかし、大方のメディアは、この事実を報道せず、前川氏のあいまいな説明のみを取り上げ、謎は深まるばかりなど報道している。この状況をどう考えたらよいだろうか。日本のマスメディアは、まず事実をしつかり国民にかと思

新聞は社会の公器という常識が、今後数年で大きなパラダイムシフトを迎えるかもしれない。特に新聞・テレビを含む一部の偏向メディアは真摯(しんしん)にこの問題に向き合ふべきかと思

埼玉経済

企業、団体、商店街などの話題や情報をお寄せください
TEL 048-795-9161 FAX 048-653-9040
keizai@saitama-np.co.jp